

2017年2月12日(日)

説教:「『ベルゼブル』発言と沖縄」

聖書:マタイによる福音書12章22～32節

イエスの癒し物語は、ただ単に病気や障がいの癒し、回復への物語として伝えているものではない。(9 節)ファリサイ派の人々は安息日に一人の手の萎えた人を会堂に連れて来て、イエスを訴える口実にした。普段は見向きもせず、障がい者を排除してきた者たちである。イエスは彼らの魂胆を知りつつ、一人の人に向き合い、安息日でありながらも御業を顕す。イエスの癒しの背景には人の肉体的機能の回復以上に、人一人の社会的地位の回復に大きな意味を示す。手の萎えた人が癒された時、もう会堂から排除されることはない。イエスはこの時、命が狙われる覚悟の上で、一人の尊厳の回復に務めた。イエスの宣教は、《暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰の地に住む者に光が射し込む》(マタイ 4:16)ことだと宣言する。神の国がここにある。

イエスは《ベルゼブル》呼ばわりされた。この「ベルゼブル」は、文字通り「悪霊の頭」を意味してここで使われているが、ただ原語的にこの「ベルゼブル」は、古代パレスチナでは「蠅の主」、神として崇めていた。ユダヤ人には、これ以上ない汚れの象徴。また、語尾の「ゼブル」は「糞」という意味も持つ。まさに蔑称としてこの言葉は使われ、イエスは「ベルゼブル」発言を受けたわけだ。

今、沖縄に対するヘイトスピーチが止まらない。沖縄への差別的発言には、二つの側面がある。一つは在日韓国・朝鮮の方々への差別的発言に見るマイノリティー(少数派)への差別。もう一つは反基地運動への政治的攻撃。普天間基地オスプレイ配備、辺野古新基地建設、高江ヘリパット建設などに対する沖縄側の粘り強い反対運動は、県を挙げての抵抗であり、これを快く思わない人からすれば国策にいつまでも抵抗する者は厄介者、非国民だという意識が生まれ、沖縄ヘイトが起こるわけだ。昨年、機動隊による「土人」発言があり、それを擁護する政治家まで出て来る始末。もうここには、埋めようもない沖縄とヤマトとの溝が見える。勿論、日本に限った事ではなく、世界的にその傾向は再び強く、世界の右傾化は米国トランプ発言が誘発するかのようになりを見せる。

イエスは、自分を絶対化して他者を非難し、切り捨てる状況に対し厳しい言葉をもって警告する。《だから、言うておく。…聖霊に言い逆らう者は、この世でも後の世でも赦さ

れることがない。》このことへの理解は難しい。しかし、神が宣言しておられる神の国の到来への真逆な状況に対して、イエスの厳しい警告の言葉であることを受け止めて行きたい。そして教会は、この世のあり方に対して、警鐘を鳴らす役割を忘れてはならない。(神谷)